

Vine

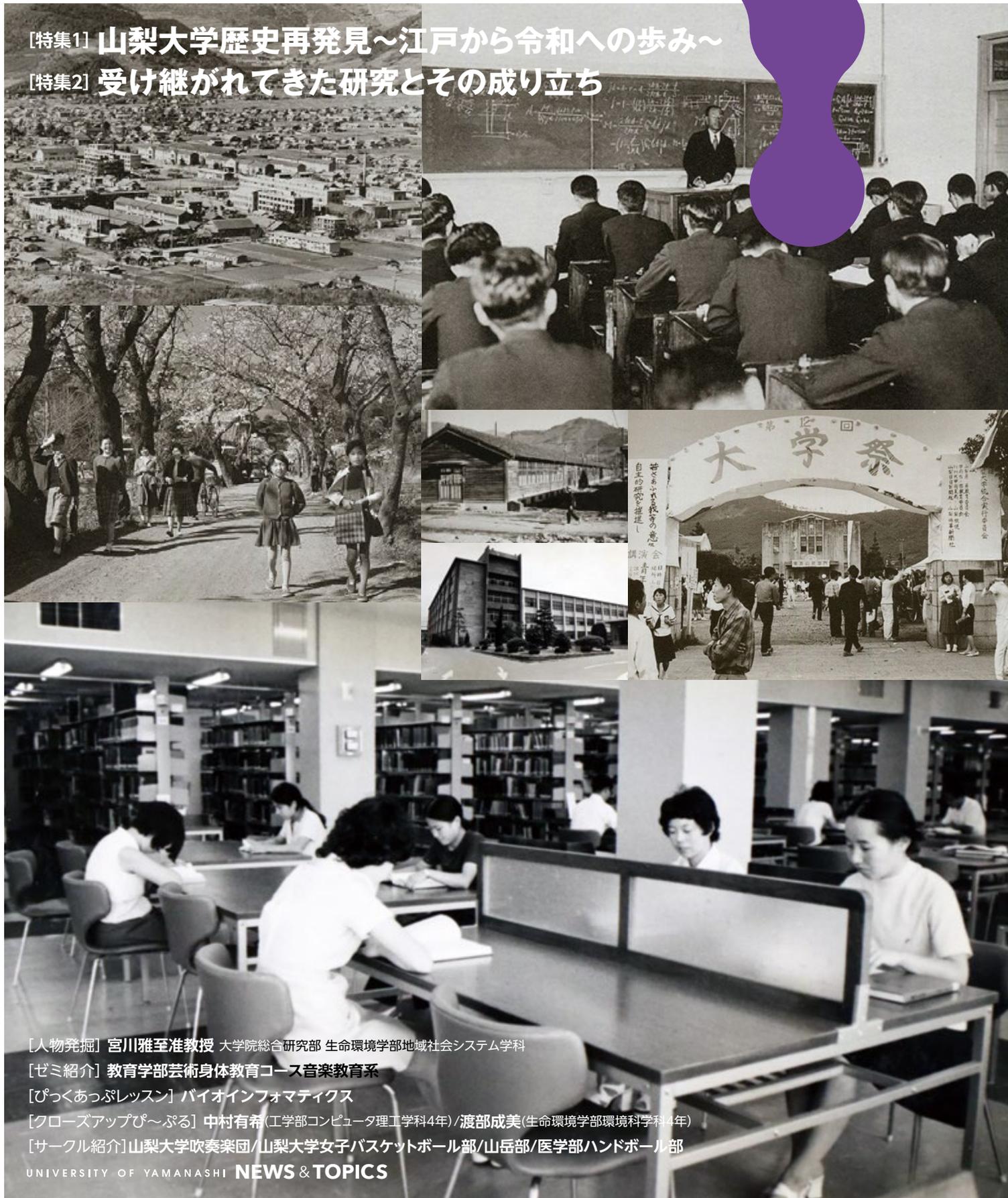
「地域の中核、世界の人材」
UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報
ヴァイン

2019
vol.35
August

[特集1] 山梨大学歴史再発見～江戸から令和への歩み～

[特集2] 受け継がれてきた研究とその成り立ち



[人物発掘] 宮川雅至准教授 大学院総合研究部 生命環境学部地域社会システム学科

[ゼミ紹介] 教育学部芸術身体教育コース音楽教育系

[ぴっくあっぷレッスン] バイオインフォマティクス

[クローズアップ〜ぶる] 中村有希(工学部コンピュータ理工学科4年)/渡部成美(生命環境学部環境科学科4年)

[サークル紹介] 山梨大学吹奏楽団/山梨大学女子バスケットボール部/山岳部/医学部ハンドボール部

UNIVERSITY OF YAMANASHI NEWS & TOPICS

山梨大学歴史再発見



開学時のキャンパス

～江戸から令和への歩み～

山梨大学の開学には3つの組織が関係しています。

戦後間もない1949年、山梨師範学校・山梨青年師範学校・山梨工業専門学校が母体となり、「旧山梨大学」が設立されました。

上の写真は1949年、山梨大学が開学したまさにその年のキャンパスの写真です。

当時は写真手前の工学部、写真奥の学芸学部（現 教育学部）の2学部しかなく、木造の校舎も多く使われていました。

平成の時代が終わり、「令和」の時代が始まりました。

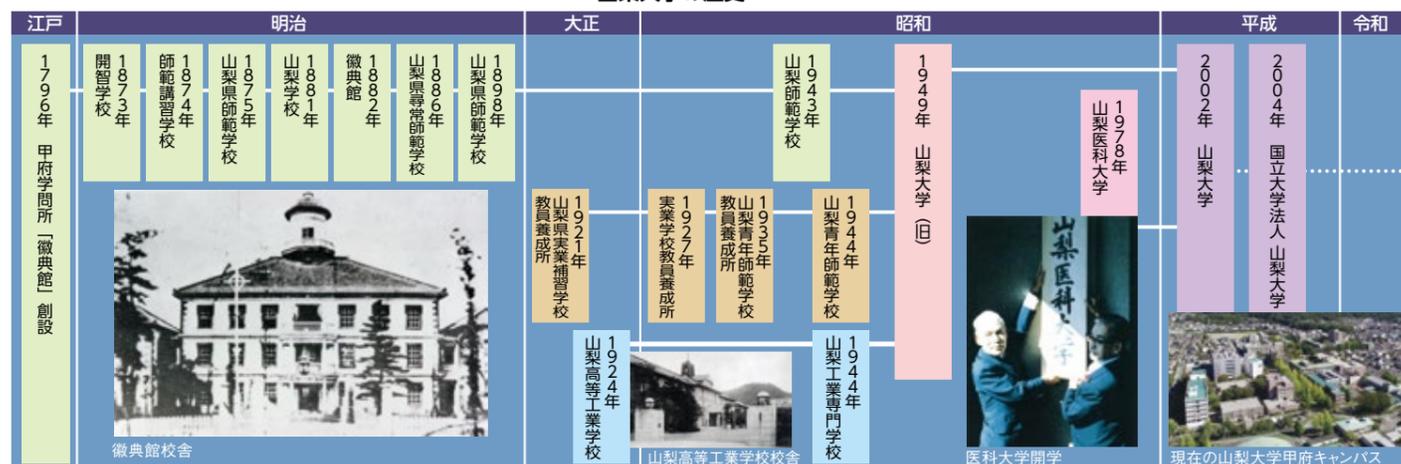
新たな時代の幕開けとなるこの年、開学から70年を迎える記念すべき年として、山梨大学の歴史を振り返ってみましょう。

200年以上にわたる知の伝統！山梨大学のルーツ

1949年の旧山梨大学の開学後、2002年には山梨医科大学と統合し現在の山梨大学となり、2004年に国立大学法人化、2012年に生命環境学部が設置されました。

今の山梨大学のもととなった教育組織の中でも、山梨師範学校の歴史は特に古く、江戸時代1796年に幕府の学問所であった昌平坂学問所の分校「徽典館(きてんかん)」として甲府に開かれたのが始まりです。

山梨大学の歴史



山梨大学のこれから ～やまなしアカデミアの再構築～

令和元年5月23日、「山梨県、山梨大学及び山梨県立大学の連携協力に関する協定」を3機関の間で締結しました。

この協定は、三者の連携により、教育・研究・人材育成・組織運営等に係る各種事業を効率的に実施できる仕組みを構築することで地域を支える人材やイノベーションの進展や地域の発展に貢献することを目的としています。

今後は、全国初の取組みとして両大学が参画する新法人（一般社団法人）を設立した上で、国において制度化が進められている大学等連携推進法人（仮称）制度の活用等を含めた連携について、山梨県の協力を得つつ検討を進めてまいります。



2019年5月23日、山梨県庁にて。(右から)鳥田眞路山梨大学長、長崎幸太郎県知事、清水一彦県立大学長が固い握手を交わしました。

梨大歴史 Photo コレクション



工学部校舎・甲府キャンパス噴水広場

1967年、武田通りをはさんだ工学部校舎・現B1号館(奥)と甲府キャンパス噴水広場(手前)。1997年には8階建てのT1号館が完成しました。



甲府西キャンパス

1973年、武田通りから見た附属図書館(左)と教育学部校舎・旧K号館(右)。旧K号館は現在は生命環境学部校舎・S1号館として使われています。



大会館

学生食堂・多目的ホール・文化系サークルの活動室などが入っている大会館は、学生交流の場としてほとんど姿を変えず残っています。



医学部キャンパス

開学して間もない1988年の医学部・附属病院の全景。病棟の増改築やヘリポートの設置など、ニーズに合わせた改修が今も進んでいます。



1960年ごろの武田通り。拡張工事が行われる前ですが、今と同じく桜並木になっていることがわかります。



1963年開催の第12回大学祭。盛況の様子が伝わってきます。



1960年ごろの講義風景です。今も昔もあまり変わらないようです。



大学内には、かつて使われた教科書や通信簿など貴重な資料が所蔵されています。

受け継がれてきた研究とその成り立ち

山梨大学を象徴する歴史ある研究の一部にスポットをあて、研究が始まった経緯や、あまり知られていない逸話をご紹介します。

山梨県特有の地理的要因や文化・生活様式などが深く関係した研究の歴史を振り返り、
新たな魅力を発見しましょう。

ワイン科学

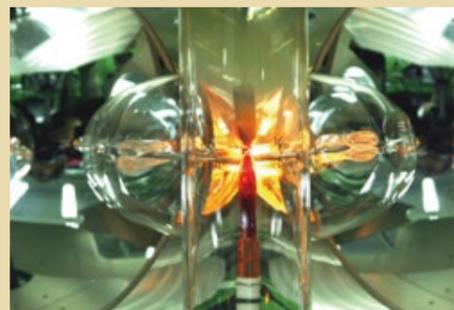
文明開化を迎えた明治時代、時の政府は国家財政を安定させるための殖産興業の一環として、ブドウ栽培・ワイン醸造を奨励しました。そこで、ブドウが名産であった山梨県に1877年、日本初のワイン醸造所が誕生したのです。

その後、第二次世界大戦中に、ワインを醸造する際にできる「粗酒石(そしゆせき)」という結晶を原料とする「ロッシェル塩」が潜水艦や魚雷を探知するソナーの部品となるため、ワイン醸造が国を挙げて推奨され山梨県が生産拠点となり大量のワインが作られました。

そして戦後間もない1947年、甲府歩兵第49連隊・東部第63部隊の将校集会所跡地に現在の本学ワイン科学研究センターの前身となる「発酵研究所」が設置されました。現在では、世界20ヶ国以上の50を超える機関で構成されるブドウ・ワイン研究の国際ネットワーク「Oenoviti International Network」と連携を結ぶことで世界中の機関と協力して教育研究を進めています。また、企業・自治体との協働により新たなワインを開発・商品化するなど、日本のワイン産業の発展を牽引しています。



水晶研究



四方を雄大な山々に囲まれている山梨県は古くから水晶の名産地として知られており、それによって水晶の加工・研磨技術が発達しました。今では国内で最大の生産量を誇る宝飾加工産業に発展しています。

本学では、山梨師範学校当時の1920年ころに、水晶の収集家であった百瀬康吉氏から水晶の寄贈を受け、保存・展示を目的に「水晶庫」を建設しました。その後、甲府市内で宝飾業に携わっていた石原宗美氏・石川文一氏からも寄贈を受け、現在では170点ほどの水晶類を所有しています。

一方で、水晶は無線通信など情報通信には欠かせない材料であり、戦後に工業製品への利用が増えるにつれて日本国内で人工水晶の開発研究が盛んに行われるようになりました。その先陣を切ったのが山梨大学で、1953年から当時の工学部教授らが人工水晶の開発に着手、日本初の人工水晶の合成に成功しました。人工水晶は今では携帯電話、パソコン、デジタルカメラ、自動車などの様々な電子機器に使われており、当時の研究が現在の人工水晶の量産体制及び本学クリスタル科学研究センターの礎になっています。



治水研究

急峻な山々に囲まれた山梨は古来から水害に悩まされてきました。武田信玄による治水工事から始まり、今も県土を守るための治水工事や研究が進められています。しかし試練ばかりではありません。富士山、南アルプス、八ヶ岳など日本を代表する山々は良質な水を育み、ミネラルウォーター生産量日本一の地域となり、いま山梨県の「水」が注目されています。

本学国際流域環境研究センター(ICRE)では、水に恵まれたこの山梨の地で、山梨県「水」ブランド戦略「天に選ばれし、名水の地。山梨。」と連携した研究・教育を展開しています。一方、世界の多くの地域では深刻な水の問題を抱えています。本センターでは、これまで蓄えてきた水科学に関する知識と技術を総動員し、ネパール・カトマンズ盆地の住民

に安全な水を供給するために、国際協力機構と科学技術振興機構による国際科学技術協力プログラム「微生物学と水文水質学を融合させたネパールカトマンズの水安全性を確保する技術の開発」を推進しています。さらに、過去数十年で世界中に送り出した各60人以上の修士・博士修了生とともに流域環境科学連合(SURF)を立ち上げ、世界の水問題に挑戦し続けています。



燃料電池・クリーンエネルギー研究



水素と空気から無公害に効率よく電気が直接取り出せる発電装置である燃料電池。1961年にアメリカ・NASAが研究を開始し有人宇宙飛行を目指した「ジェミニ計画」や「アポロ計画」などに採用され、夢の新エネルギーとして有名になりました。

日本で燃料電池研究が盛んになるのは、1978年に始まった省エネルギー技術の研究を進める「ムーンライト計画」からですが、本学では1960年代後半から研究を始めていました。この計画が始まった1978年には文部省令により国内初の燃料電池実験施設を設置し、全国に先駆けて人材育成と産学官連携の研究開発プロジェクトに取り組みました。研究組織は2001年にクリーンエネルギー研究センターが、2008年に燃料電池ナノ材料研究センターがそれぞれ設置されるなど拡大・発展を続けており、今では最先端の研究開発成果と多くの人材を国内外に排出する世界最大・最高レベルの研究・教育拠点となっています。

これまでの成果は、身近なところでは家庭用燃料電池エネファームや燃料電池自動車などで広く活用されており、今後到来する水素社会の実現に向けた産業創造を目指す研究が、山梨県や県内外の企業と連携して進められています。



甲州プロジェクト・エコチル調査

本学医学部社会医学講座・出生コホート研究センターでは、1988年から30年以上にわたり、山梨県甲州市(旧塩山市)と共同で甲州プロジェクト(甲州市母子保健長期縦断調査)を実施しています。これは、子どもの発育・発達を、母親の妊娠届出時から追跡調査するプロジェクトで、乳幼児健診の場を利用した健康調査を中心に、最近では小中学生を対象とした思春期調査を実施し、妊娠中の喫煙が幼児期・思春期の肥満のリスクとなることなど世界的に評価される様々な健康に関わる要因を明らかにしています。その成果は市の乳幼児健診で用いるリーフレットや学校での保健学習の教材、健康増進計画などに活用されている他、国が進めているデータヘルス事業の先駆けとなるなど、国内外でも珍しい調査です。

また、同センターは、2011年から始まった10万人の親子を追跡調査する一大国家プロジェクトである環境省・エコチル調査(子どもの健康と環境に関する全国調査)の全国15の拠点の一つとなっており、化学物質などの環境要因・運動や食事などの生活習慣が子どもの成長にどのような影響をもたらすかを日々調査しています。



宮川雅至准教授

大学院総合研究部 生命環境学部地域社会システム学科

現代社会に渦巻く山積みの課題に、
理的アプローチで挑む、
社会工学者 宮川雅至准教授。
より快適で安全な、災害に強い都市とは？
少子高齢化が進むなか、地域のあるべき姿とは？
さまざまな課題を、科学的な視点で検証し、
世界に発信しています。

人物 発掘



歴史ある田舎町で 自由闊達に過ごした幼少期

私は、福井県の若狭町で育ちました。古くは鯖街道の熊川宿という宿場町があったところで、今も古い町並みが残っています。とても田舎で人口も少なく、小学校は1学年10人程度という小さな学校でした。のどかな環境でみんな大らかで、学校から帰ると、友達と誘い合っては、夏は川での魚釣りや野球、豪雪地帯なので冬は雪遊びやスキーをするのが楽しみでした。

「研究者になろう」と決めた高校時代。 田舎暮らしの不便さが、 都市工学を志す原点に。

中学生になるとバス通学が始まったのですが、都会のように頻繁にバスがあるはずもなく不便さを感じていました。都市への憧れもだんだん強くなり、「早く田舎を脱出して都会に行きたい」という思いが芽生えたのもこの頃だったと思います。思春期のこうした経験や思いが、都市計画に魅か

れた原点になっているのかもしれませんが。高校は理数科へ進んだのですが、きっかけは、中学校の先生の「君は理系が向いているんじゃないかな」という一言でした。考えてみると、確かに、答えがはっきりと出る科目の方が向いているのかなと。ただ、取り立てて数学や物理が好きというわけではなく、得意科目は地理。理数科目に重きを置いたカリキュラムのおかげで数学とじっくり対峙することになったのですが、これがなかなか大変でした。

研究者になろうと思ったのも、高校時代でした。「将来の夢はあるのか？」という先生の問いかけに、友人が「研究者になろうと思うんですよ」と答えているのを偶然耳にして、研究者という道もいいなと思ったのが、今に至るスタートラインになりました。

さて、研究者という将来の夢はおぼろげに見えたものの、では何の研究者になるのかという点では決まっていなかったのが、大学受験に際しては、いろいろと情報誌を見たりして調べました。そのなかで興味を持ったのが、社会の問題を工学的なアプローチで解決しようという社会工学です。そこで、社会工学の研究者が多く高度な勉強ができること、加えて関東にあり、大都会東京にも近いだろうという期待から、筑波大学の第三学群社会工学類へ進み、都市計画を専攻することにしました。実際には、筑波と東京はかなり離れていて、気軽

に遊びに行けるようなことはなかったんですけどね。

大学で出会った、生涯の師と、 追い求め続けるべき学問

大学入学後、土木や建築なども含め社会工学を幅広く学ぶなかで、最も興味を持ったのが、数理的なアプローチで都市を考える「都市解析」と呼ばれる学問分野でした。これは、例えば都市のなかに図書館や公民館といった公共施設を作る際に、どこに作れば誰にとっても一番便利なのかということ、数学を使って導き出します。数理モデルを用いることで問題の本質を客観的に理解し、科学的な解決策を提案することができます。この分野を志したことで、数学の必要性を肌で感じるようになり、自ら学ぼうという姿勢も身につけてきました。

また、都市計画専攻ではグループワークが重視されていて、町の課題を調べる、都市計画マスタープランを作るなどといった課題にグループで取り組む機会が多くありました。ほとんどの学生が大学周辺のアパートで独り暮らしをしていたので、時間を気にせず深夜まで議論したり、大学に泊まり込んで朝まで作業をしたりして、大変だったけれど、楽しかったですね。

4年生の研究室配属では、都市空間の数理解析に取り組んでいる大澤義



明先生の研究室へ。そのまま博士号を取得するまでお世話になりました。大澤先生は理論だけでなく、学生を連れて北海道へ行きまちづくりを実践するなど、地域貢献も含め幅広く活発に活動されていて、そうした先生の活動や姿に、今も多くの学びを頂いています。

ところで、大澤研究室では、学部生を直接指導するのは大学院生の役割でした。これは、学部生は、先輩のやり方を学び、先輩の姿に将来の自分を重ねながら、成長していくことができ、大学院生もまた、後輩を指導することでさらに成長することができるという理想的な環境です。私自身がそういうゼミに育ててもらったので、今度は指導教員として、そうしたゼミを作っていけたらなと思っています。

研究者として、教育者として

現在は、公共施設や道路網の最適な整備量や配置についての研究を進めるかわら、人口が減少していくなかでの自治体連携のあり方を研究している甲府市の「みらい協創研究会」に研究員として参加し、現状の公共施設の利便性や効率性を評価したうえで、将来的な施設の削減や自治体間での相互利用を検討しています。

また、1年生の「基礎数学」や2年生の「経済地理学」といった授業も担当しています。文系の学生も多いので、「基礎数学」は高校数学の復習から。一方「経済地理学」は、経済現象を地理学的に分析するという学問分野で、市役所や図書館といった公共施設の最適な配置をはじめ、商業立地、産業立地、地域間交通といった経済現象を空間的に分析するという授業です。地域づくりに多少なりとも興味のある学生には、おもしろい授業だと思います。

さらに、観光政策科学特別コース対象の授業も担当していて、先日、富士五湖地域で1年生の研修をしてきました。忍野八海や山中湖、河口湖周辺のレジャーやアミューズメントを実際に体験し、夜は簡単なワークショップを実施して課題を洗い出し、どうすれば解決できるかを話し合いました。こうした場合、私は、都市工学の見地からのアドバイスをすることになります。具体的に挙げるなら、どういう手段でアクセスできるかとか、どういうルートで行けばいいかといった視点ですね。

学生には、自ら学ぶという姿勢を大切にしたいと思っています。大学での授業は、あくまでもきっかけや導入であって、本当の学びは自分自身で勉強して掴むもの。例えば、現地視察やフィールドワークでも、視点をどこへもっていくかによって学べることは違って来るし、身につくものにも差が出ます。常に「学ぶ」という姿勢を持って、学び続けてほしいと思いますし、それを楽しんでほしいとも思いますね。

座右の銘は、 「日記を書くように論文を書きたい」

論文は、自分が発見したことや考えたことを多くの人に伝えることのできる手段ですから、研究活動の醍醐味の一つと言えます。私の場合、表現や構成を工夫しながら書くことにも楽しさを感じますし、発表後どんな反響があるかわくわくしながら待つ時間も好きですね。

座右の銘は、著名な都市工学者である岡部篤行先生を評した「日記を書くように論文を書く」という言葉から。私もそうなりたいという思いを込めて、座右の銘にしています。

本当の学びとは、
自らの手でつかむもの。
学生には、一日も早く
自ら学ぶ姿勢を身につけ、
いかなるときにも、
学び続けて行ってほしいと思います。



【専門分野】
都市工学、社会工学
【学位】
博士[社会工学] (2005)
【略歴】
1977年 福井県若狭町生まれ
2000年 筑波大学第三学群社会工学類卒業
2005年 筑波大学大学院システム情報工学研究科修士
筑波大学大学院ビジネス科学研究科准研究員
2007年 筑波大学大学院ビジネス科学研究科助手
山梨大学大学院医学工学総合研究部助教
2014年 山梨大学大学院総合研究部助教
2019年 山梨大学大学院総合研究部准教授
【受賞】
山梨大学優秀教員奨励制度特別表彰(2018年)
筑波大学大学院システム情報工学研究科長表彰(2005年)
第20回日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞(2002年)

MIYAGAWA Masashi

教育学部芸術身体教育コース音楽教育系

池山 洋子 准教授

「感じ、考え、表現する」

教育学部芸術身体教育コース音楽教育系では音楽能力の専門性を高めるための教育を行っています。

声楽、ピアノはもちろん、音楽理論や東洋・西洋音楽史、管弦打楽器・邦楽器・リコーダー実習、指揮法などの音楽専門科目や、初等・中等音楽科教育法など教職関連科目をバランスよく学ぶほか、声楽、器楽、作曲・編曲、音楽学、音楽教育などのいずれかの分野を選択し専門的に学習します。

その中でも私は特に、ピアノ演奏・ピアノ指導が専門です。音楽教育系では、1年生からピアノの授業を受講し、3年生後期までに原則的に全員ピアノの授業を受けることを薦めています。もちろん4年生でも、希望者には個人レッスンをしています。

私のピアノ演奏・指導の中では、「自分の頭で考えること」を特に重要視しています。楽譜を解釈し、表現する。その過程では、作曲者が生きた時代の社会的背景を知ることや、作曲者とその作品を理解するための論理的な楽曲分析が不可欠です。楽譜に書かれている音符や記号が何をどのように表現するために書かれているのか、作曲者が伝えたいことを論理的に読み解いていくことが必要です。加えて、音楽というものは人間の感情が源になっているものだから、それらを感じ取り表現できる豊かな感受性と確かな技術が必要であることは言うまでもありません。

音楽教育系の特徴の一つは、学内演奏会を含め、演奏や作品などの発表機会が多いことです。音楽は音を使った他者との



ゼミコンサートの様子。これは2台のピアノを4人で弾く、2台8手という珍しい演奏です。



その名の通り水曜日の午後に行われる水曜イブニングコンサート。一般の方も多数来場します。



リズムを合わせて!



学生同士での演奏の相互評価を通して、音楽表現の幅を広げます。



学びの集大成となる卒業演奏会。圧巻の演奏!



ピアノゼミ。音楽教育系では2年生からゼミに入ります(右奥:池山准教授)。

コミュニケーションですので、一人で練習するだけでなく、その成果を披露することがとても大切です。音楽教育系では年に2回、ゼミコンサートを開催しています。前期末に行う1回目は、一人で音楽にとことん向き合う独奏を中心に、後期末は他者と共演して一つの音楽を完成させるアンサンブル(合奏)のプログラムにするなど、幅広い題目を用意しています。

また、一般の方にもご来場いただいている年4回の「水曜イブニングコンサート」や、県内のホールを会場に盛大に開催される卒業演奏会など、自身の研鑽の成果を発表する機会が多くあります。自分の力の限りを尽くして物事に取り組み、その成果を見てもらうという体験は人生を通しての財産となり、大きな自信になってくれることと思います。

繰り返しになりますが、音楽というものは人間の感情が源です。他者への共感がなくては音楽を表現することはできません。音楽を深く学ぶことによって、人間を理解し、共感する心を育むことができると確信しています。

ぴっく
あっぷ
レッスン
授業のヒトコマ

27

バイオインフォマティクス

【担当教員】

生命環境学部生命工学科
幸田 尚 教授バイオ(生物学)と
インフォマティクス(情報科学)の融合

近年、生物学の分野において、実験技術の向上などにより遺伝子やゲノムを中心に得られるデータ量が爆発的に増加し、どんどん蓄積されています。これは、遺伝子解析に必要なDNA配列決定の技術が凄まじいスピードで発展しているためです

しかし、得られるデータがあまりに大きくなりすぎて、そこから必要な情報を取り出すことが難しくなってきました。ここで考えられたのが、情報科学の技術、コンピュータを使って膨大なデータを処理する新たな学問「バイオインフォマティクス」なのです。これにより、

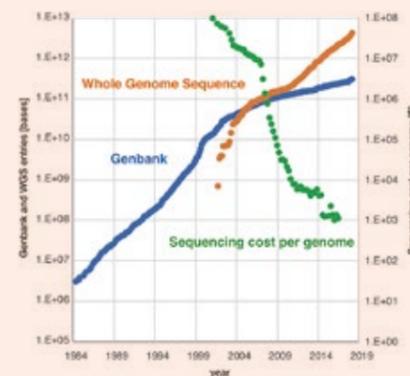
情報を簡単に検索できるプログラムが開発されたり、新しい解析技術に対応したデータベースが作られるなど、研究は新たな広がりを見せています。

この学問が応用できる範囲はとて広く、生物と環境の関係を研究する生態学の分野では、環境ゲノミクスという、環境中の生物のゲノムをそのまま解析するといったこれまでは想像できなかったような活用が進んでいます。さらに生物学だけにとどまらず、医学分野では臨床ゲノミクスとして患者さんのサンプルのゲノム解析の結果を治療に役立て、考古学の分野では日本人のルーツを探るといった研究などにも使われています。このため、現在では幅広い分野で、実験だけではなくコンピュータを使ったデータ解析がますます重要になっています。

この授業では、実際に生物の個体や細胞を使う、いわゆる「ウェットな研究」をする研究者にも必要となる、バイオインフォマティクス(ドライな研究)の知識を身につけることを目指します。

しかし、生物学を志す学生の中には少なからず「コンピュータは不得意で…」という方がいます。この授業はパソコンが苦手な学生にもわかりやすいように、1人1台ずつパソコンが用意された環境で、Webの一般的なブラウザだけでできることを中心に、最新の研究情報もカバーしつつ丁寧に解説しながら実習を進めます。

バイオ(生物学)とインフォマティクス(情報科学)の二刀流!その入門となる授業なのです。



1人1台パソコンを使用します。近くの席同士で教え合ったりすることも。

close-up people

研究活動やサークル、プライベートにと輝く山梨大生を紹介します。



**コンピュータサイエンスの無限の可能性を追求!
今までにないものを作り上げる技術者を目指します!**

工学部コンピュータ理工学科4年
中村 有希 (山梨県出身) **NAKAMURA Yuki**

山梨大学に入学した理由は?

高校生の頃からコンピュータサイエンスに興味があり、数学と英語が得意であったため、これらの知識を活かしてプログラミングやソフトウェア開発の技術を学びたいと強く考えていました。そこで、コンピュータ理工学科のある地元の山梨大学に進学しました。

**コンピュータ工学の
魅力を教えてください!**



ゼミでの1枚

新しい知識や技術を学ぶたびに出来ることがどんどん増えていくことです。コンピュータサイエンスには無限の可能性があると考えていて、身に付けた知識や技術を活用し、今までになかった画期的なシステムをゼロから作り上げることがとても楽しいです。

学科の授業の中では、Webシステムのチーム開発が印象に残っています。県内のIT企業協力のもと、要求仕様を満たすシステムを開発する授業で、私はチームリーダーを務めました。「将来就職したらこんな仕事をするんだ!」と強いイメージを持って授業に取り組み、要求に応えることはもちろん、システムの操作性やデザイン性などをとことん追求した結果、最優秀作品賞を獲得することができました!このことが今の自信やモチベーションに繋がっています。

**今後の進路について
教えてください!**



国内企業の海外拠点にもインターンシップに行きました!

就職します。就職活動では、数日程度のものや2週間ほどの長期のものを合わせて7社のIT企業や情報機器メーカーのインターンシップに参加させていただきました。最終日には成果報告会があり、大勢の企業関係者などを前にして発表するので、度胸がつくかもしれません。就職先は、無事に大手通信サービス会社に内々定をもらいました。

学生生活を教えてください!



留学先の上海にて

自分に無い価値観や広い視野を持つために留学に挑戦し、1年の頃には中国の杭州電子科技大学に短期留学して、自分と同じコンピュータサイエンスを学ぶ中国人の学生と交流しました。特に問題なく英会話を楽しむことができ自信が持てたのと、同世代で高い技術を持つ海外の学生と交流できたことはとても良い経験になりました。また、中国の四川大学で毎年行われている国際交流合宿にも3年生の頃から参加しています。

私はサークルや部活動には所属していませんでしたが、その分の時間も自分がやりたいことにつき込みました。個人的なWebサイトの開発運営をしたり、知り合いのお店のホームページを立ち上げたり、そのすべてが今の糧になっていると思います。



杭州電子科技大の学生と



四川大学の学生たちと1枚!

受験生に一言!

受験はゴールではなく通過点です。自分が入学してから本当にやりたいことをはっきり見据えて、そこを目標に勉強してください!

私がそうだったように、入学時に専門知識や技術がなくても、興味を持って取り組みれば必ず自分の力になります。山梨大学で、自分の興味を探求してみませんか!

**勉強も大学生活も充実のリケジョ!
環境保全に取り組む社会人を目指します!**

生命環境学部環境科学科4年
渡部 成美 (福島県出身) **WATABE Narumi**



**山梨大学に入学した
きっかけは?**

小さいころから外遊びで自然に触れることが多かったのと、生物や化学などの理系科目が好きだったことから、自然科学分野に興味を持っていました。中学生・高校生になるころには環境問題が大きな話題になっていたため、それらについて学べる学部を探して山梨大学に入学しました。

勉強はいかがでしたか?



ゼミの皆でパーティ!

1・2年次では、専門的な知識だけでなく一般教養など全学部共通の科目も学ぶので、他学部の友人ができます。3年次からは実験・実習が中心になり、それまで学んできたことが実を結びます!実習は興味深いことばかりで、植物油や廃油からバイオディーゼル燃料を作ったり、携帯の電波も入らない山奥の河川のデータを連日測定したり、大変なこともありますがとても楽しく学んでいました。

今は田中靖浩准教授の研究室に所属しており、採取した水や土から、微生物を効率的に分離・培養する方法を研究しています。実は身の回りの地面なんかにも、まだまだ未知の微生物がたくさんいるかもしれないんですよ!



ゼミで互いの研究内容を報告

学生生活を教えてください!

部活動はバドミントン部に所属していました。練習は週4日男女混合で行い、関東甲信越の大学リーグの大会に出場するなどかなり活発に活動していました。また、学園祭実行委員にも入っていて、3年生の時には運営に大きく携わり楽しい思い出になりました。

また、学科の同年代の学生同士の仲がすごく良く、先生を交えてパーベキューをしたり合宿に行ったりすることもあります。



バドミントン部の仲間と記念撮影!



大学祭は大盛況に終わりました!



環境科学科の同期と、実習中のバス内にて

山梨での生活はどうか?

福島から引っ越してきて、大学の近くのアパートで一人暮らしをしています。同じように山梨大学の近くに住んでいる学生はとても多いので、集まりたいときにすぐ集まることができます。山梨大学以外にも近くに大学があって学生が多いのと、小学校・中学校も多いエリアなので、治安も良いです。大学から最寄りの駅まで行く場合も、大通りをまっすぐ進むだけなので、女の子の一人暮らしでも安心です!

山梨は自然がとても豊かなので、春にはお花見をしたり秋には紅葉狩りに行ったり、その季節ごとの自然を楽しむようにしています。ただ、甲府は盆地なので、夏の暑さと冬の寒さは何度経験しても大変ですね。

受験生にアドバイス!

「受験は団体戦」とよく言いますが、まさしくその通りだと思います。私はいつも友人と一緒に勉強して、お互いに教え合ったりわからないところを聞きあったりしていました。一人で抱え込まず、友人や家族・先生を頼ることも大切だと思います。

University of Yamanashi Wind Orchestra ◎山梨大学吹奏楽団

息を合わせてリズムに乗って。
圧巻の演奏をお届けします!

Twitter:@U_Y__W_O

こんにちは!山梨大学吹奏楽団です。
現在は35名の団員で、日々楽しく演奏活動を行なっています。大学に入ってから楽器を始めた団員も多く、初心者・経験者を問わずみんなで教え合いながら良い演奏を目指して頑張っています。

当団は、地域のお祭りでの訪問演奏や、吹奏楽コンクールへの参加、学園祭パレードでの演奏、他大学との合同演奏会などのイベントに参加しており、演奏機会はとても多いです。団員との交流はもちろん、学外の人とも親交が深まりますよ。

そして、なんと一言も一番大きなイベントが年1回の定期演奏会です。今年は第40回の記念演奏会となり、令和元年11月30日に甲府市のYCC県民文化ホー



日頃から息を合わせる事が重要です。

ルで盛大に行われます。とても楽しい演奏会をご用意しています。ぜひ足を運びください! 皆さまのご来場をお待ちしております!

また、日頃の演奏以外にも、お花見やBBQなど季節ごとにレクリエーションを交えて楽しく活動しています。団員は常に募集しているので、まずは気軽に演奏会などに遊びに来てください!



コンクールで見事入賞!



大学祭恒例の演奏パレード!

Women's Basketball Club Kofu Campus ◎山梨大学女子バスケットボール部

「ナイスプレイ!ナイスシュート!」
明るく楽しく勝利をめざして!

Twitter:@ymns_jobas

こんにちは!山梨大学女子バスケットボール部です!

バスケットボールというと、高校の部活動のように、つらい練習を毎日行うハードなものをイメージするかもしれませんがそうではありません。勉強やアルバイトと両立しながら、楽しく活動しています。

現在は部員5人で週3回、大学にある体育館で活動しています。部員は少ないですが、学内の友人などに助っ人に来てもらい、



達成感は格別です!

試合形式の練習をしています。練習の成果を発揮する場として年に4回ほど大会があり、山梨県内や関東圏の大学と試合をします。勝利した時の達成感はひとしおです!

バスケットボールは、仲間同士の連携がとても重要なチームスポーツです。そのため、私たちは声を掛け合うことをモットーとしています。「ナイスプレイ!ナイスシュート!」など、お互いに励ましあいながら明るいプレーでバスケットを楽しんでいます。

部員同士仲がとてよく、休日には一緒に観光名所に行ったり、果物狩りをしたり、甲府市内の飲食店を回ったりして遊んでいます。

スポーツと大学生活、両方を謳歌したい人はぜひ一度体験に来てください!プレイ



白熱する試合。日ごろの成果が試されます!



市内の飲食店でパジャリ。練習や試合以外でも親交を深めます。

ヤーでもマネージャーでも助っ人でも大歓迎です!

Mountaineering Club ◎山岳部

厳しくも美しい大自然を、
歩き、楽しみ、堪能する。

私たち山岳部は、2名の顧問のご指導のもと、男子34名、女子16名の計50名で活動しています。男子学生だけでなく女子学生も多く在籍しているほか、活動内容は登山だけでなく、スキーやスノーボードといったウィンタースポーツやボルダリングも有志でやっています。



登りきったときの達成感は格別!あなたも経験してみませんか?

登山の魅力は何と言っても、春夏秋冬を通じてまったく違う表情を見せる自然と触れ合えることです。春・夏には新しく芽吹いた木々の息吹を感じ、秋には色とりどりの紅葉を臨み、冬には延々と続く銀世界を踏みしめる。自然の中を自分の思うままに歩き、楽しみ、堪能することこそ、登山の醍醐味だと思います。

もちろん、山は楽しいことだけでなく、辛いこともあります。見えているのに山頂になかなかたどり着けない急勾



自然の中では野生動物に遭遇することも。不必要に刺激しないことが重要です。



固定されている鎖を頼りに登る「鎖場」というゾーン。歩くだけで登山ではありません。

配、長いときには一日中かそれ以上吹きすさぶ風雨、視界不良を引き起こす霧など…。ですが、辛い道のりを経て、仲間とともに山頂で素晴らしい景色と達成感を手に入れる喜びは格別です。

山梨県は南アルプス連峰・八ヶ岳・奥秩父など、四方を山に囲まれており、誰でもハイキングを楽しめる初心者向けの山から、踏破に本格的な準備が必要になる難易度の高い山まで様々な登山スポットがあります。ぜひ、私たちと一緒に登山を楽しみましょう!

Handball Club Medical Campus ◎医学部ハンドボール部

チーム一丸で全力プレー!
仲間と支え合い成長していくスポーツです!

こんにちは、医学部ハンドボール部です! 皆さんはハンドボールのルールをご存知でしょうか。ハンドボールは、1チーム7人で行い、バスケットのようにパスやドリブルでボールを

繋ぎ、サッカーのようにキーパーが守るゴールにシュートを決めれば得点になる、シンプルながら奥が深いスポーツです。

ハンド部は現在男女あわせて40人以上の



一丸となり、見事勝利!

部員がいて、春・秋の大会、加えて男子は夏の大会に向けて、週2回の練習に励んでいます。大学からハンドボールを始めた初心者の部員も多いですが、皆で教えあって、自分たちでチームを作り上げていく、そんなやりがいのある部活です。女子は去年の春大会では優勝するなど、楽しく活



女子チームの試合開始!男子チームが応援します。

動しながらも結果を残して、男子もそれに負けじと頑張っています。

医学部だけでなく、他学部・他大学の人も一緒に活動し、試合などに出ているところも大きな特徴です。色々な交友関係ができて、大学生活の幅が広がるきっかけとなっています。

ハンドボールはコートに立つ7人、ベンチ、マネージャー全員が一丸となって戦う、魅力的なチームスポーツです。大会になれば、男子が女子を、女子が男子を応援し、どの大学にも負けない仲間からの応援がプレーを支えます。興味のある方は、是非練習を覗いてみてください!

NEWS & TOPICS 1

大村博士に続け! 成績優秀な学生に対し返還不要の奨学金を授与

2019年5月20日(月)、「令和元年度山梨大学大村智記念基金奨学金授与式」を挙行了した。

本学では、ノーベル医学・生理学賞を受賞された本学卒業生・大村 智 特別栄誉博士の「若者の学業を奨励したい」との強いご意向を踏まえ、「山梨大学大村智記念基金」を活用し2016年から大学独自で学部学生に対し、返還不要の奨学金を給付しています。

授与式では、今年度給付の18名の学生に対し、島田眞路学長が目録と記念色紙を手渡し、「奨学生として自身を持って学生生活を送るとともに、これからも精進していきましょう」と激励し、各学部の奨学生代表が今後の決意や抱負を語りました。

その後、過去に奨学金が授与された学生を交えた交流会を開催し、この1年間の心境の変化や学生生活、今後の目標等を語り合うなど、有意義な会となりました。

NEWS & TOPICS 2

世界最新鋭! ドローンを駆使した本学の取り組み

本学では、高性能カメラを搭載した無人航空機ドローンを活用し、防災・研究支援等に役立てています。

防災支援の例

2018年12月4日、甲府キャンパスで火災発生を想定した消防訓練を、2019年5月19日、医学部キャンパスで地震発生を想定した附属病院トリアージ訓練をそれぞれ実施した際、ドローンを飛行させました。

空撮映像はリアルタイムで対策本部に送信され、火元や地震による建物の損壊、避難経路の状況等を把握できることを実証しまし



ドローンの映像をリアルタイムで対策本部が確認。広い範囲を素早く確認することが可能です。

NEWS & TOPICS 3

大村智記念学術館の来館者数が1万人を突破!



早下 上智大前学長(左)へ杉山俊幸 本学理事・副学長(右)より記念品を贈呈



奨学生による記念写真



学生に目録と色紙を授与



過去の受給者が駆けつけ後輩にアドバイス!!

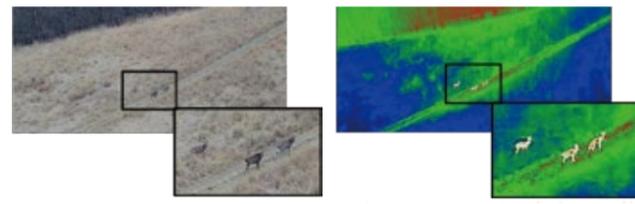
た。今後、建物内での飛行や夜間飛行などが可能かを検証し、有事対応に反映していく予定です。

島田眞路学長(右)がドローンカメラを操作し現場確認しました。

研究支援の例

2019年4月、NPO法人甲斐けもの社中・山梨県猟友会らと共同で、熱赤外線カメラを搭載したドローンをを用いた、害獣であるニホンジカの駆除に日本で初めて成功しました。

ハンターの出動前にドローンを飛ばしシカの位置を確認することで、効率的かつ安全な捕獲計画の立案が可能となりました。



通常のカメラと熱赤外線カメラの2台で地表のシカを補足。確実に安全な駆除方法の発展が期待されます。

ノーベル賞を受賞した本学卒業生である大村智博士を称え2018年7月に創設した「大村智記念学術館」の来館者が2019年3月4日に1万人を超え、1万人目となった早下隆士 上智大学前学長・教授に記念品が贈呈されました。

早下前学長は「日本分析化学会関東支部長として山梨地区分析交流会に出席するために山梨大学を訪れた際、『ぜひ、大村博士のご功績を拝見したい』と思い入館したところ、ちょうど1万人目というお話をいただき、本当に驚きました。実は2015年12月、ノーベル賞授賞式前にスウェーデン大使館が主催した祝賀レセプションに上智大学長として出席し、大村博士に直接お目に掛かったこともあり、今回の朗報は強いご縁を感じると共に大変嬉しく思います」とコメントしています。なお、本学術館展示コーナーは10～16時、無料でご覧いただけます。ぜひお越しください。

NEWS & TOPICS 4

生命環境学部学生らが、山梨県で活躍する社会人を取材し、多様な進路を示すガイドブックを制作!

生命環境学部地域社会システム学科観光政策科学特別コース・田中敦ゼミ所属学生グループが、山梨県で活躍する社会人・学生を取材し、その考え方や働き方を紹介するガイドブックを制作するプロジェクトに挑戦しました。

これは、山梨県内の学生に、県内就職を進路の一つとして示すことで、首都圏への就職だけでなく、多様な進路を考えてもらうことを目的



資金を集めるため、県内企業の関係者に企画をプレゼンし賛同者を増やしました。



県内で活躍する社会人を直撃!



完成した冊子。デザインから編集まで全て学生が手掛けた力作です。

学生らは、様々な業種・職種の社会人や就職活動を終えた学生など計14名にインタビューし、これまでの振り返りながら、悩んだこと、人生の転機、将来の夢など、様々な観点から取材を進め、冊子を完成させました。

完成したガイドブックは、県内の高校や大学へ配布されたほか、左のQRコードから、どなたでもご覧いただけます。



NEWS & TOPICS 5

海外の大学・組織と交流協定を締結 教育研究のグローバル化を推進します!

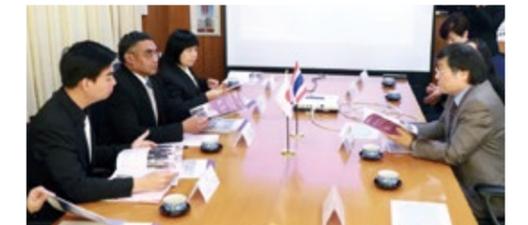
2019年6月13日、本学はフィリピン共和国イザベラ州立大学と大学間交流協定を締結しました。当日は、同大のリクマー・アキノ学長らが来学し、島田眞路学長及び共同研究を実施する本学教員らと今後の学生・研究者交流や共同研究等の推進について、意見交



締結書を掲げるとリクマー・アキノ学長(右)と島田眞路学長



ミャンマー教育省での調印式



プリンス・オブ・ソングラ大学学長・役員らと意見交換

NEWS & TOPICS 6

世界へ羽ばたけ! 本学「グローバル人材育成プログラム」初の修了生が誕生!



初の修了生となった木村さん(右から2番目)

換を実施しました。同大は水資源・環境等の研究に力を入れており、今後、主に本学国際流域環境研究センターとの連携により、更なる国際的な研究の発展や人材交流ネットワークの拡大が期待されます。

また、2019年2月16日にはミャンマー連邦共和国教育省評価・監督局と、2018年11月26日にはタイ王国プリンス・オブ・ソングラ大学とそれぞれ交流協定を締結し、国際的な研究や人材育成を推進することとしています。

2019年3月13日「平成30年度グローバル人材育成プログラム修了証書授与式」を挙行し、本プログラム初の修了生となる生命環境学部4年(当時)の木村真由さんに修了証書を授与しました。

どの学生でも参加できる本プログラムは、講義や実習、学内外での体験型講座やボランティア活動、海外留学や海外インターンシップなどポイント制のプログラムで、卒業時までまでに所定のポイントを獲得し、修了要件を満たした学生に修了証が授与されます。

木村さんは、アメリカや中国での海外インターンシップに参加したほか、プログラム講義に積極的に出席するなど、様々な面で活動しました。

木村さんは、「プログラムを通じて、海外をより身近に感じ、日本を見つめ直し、国境を越えたコミュニケーションについて新たな視点から考えることができるようになりました。今後も積極的に海外交流や学習を継続し、修了生として相応しい活躍ができるよう励みます」と述べています。

山梨大学・読売新聞社共催

「連続市民講座2019」

知る喜び ～ひと・くらし・けんこう～

山梨大学では、読売新聞甲府支局と共催し、「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」と題した連続市民講座を開催しています。

聴講は無料です。2019年4月～2020年3月の原則毎月第3土曜日(11月のみ第2土曜日、8月・1月を除く)に、本学の教員が登壇し、専門の分野を図解などを用いて分かりやすく解説します。

【日時・場所】

開催日：スケジュール一覧表参照
会場：山梨大学甲府東キャンパス A2-21 教室
定員：330人
時間：午後1:30～3:00まで(午後1:00開場)
受講料：無料

【お問い合わせ先】

〒400-8510 甲府市武田4-4-37
山梨大学教務企画課連続市民講座担当
電話:055-220-8043 FAX:055-220-8796
E-mail:koukai-kouza@yamanashi.ac.jp

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第5回	2019年 9月21日(土)	甲府盆地形成の謎 ～湖伝説から地震空白域まで～	福地龍郎 教授 (教育学部 科学教育コース)
第6回	2019年 10月19日(土)	電力を制御する ～パワー半導体の役割と将来～	矢野浩司 教授 (工学部 電気電子工学科)
第7回	2019年 11月9日(土)	牛乳に魅せられて ～牛乳が固まる事例を通じて～	谷本守正 教授 (生命環境学部 地域食物科学科)
第8回	2019年 12月21日(土)	地域みんなで介護予防 ～地域の資源の活用術～	神崎由紀 准教授 (医学部健康・ 生活支援看護学講座)
第9回	2020年 2月15日(土)	循環型社会の実現に向けて ～適正な廃棄物管理とは?～	金子栄廣 教授 (工学部 土木環境工学科)
第10回	2020年 3月21日(土)	作物がどう生きようとしているのかを考える ～見落とされがちな植物としての基本的性質を見直す～	矢野美紀 准教授 (生命環境学部 地域食物科学科)

*詳細は右記ホームページをご覧ください。 <http://www.yamanashi.ac.jp/social/378>

※2019年6月時点での情報です。

令和2年度 入試日程(学部)

以下の日程は、平成31年4月1日現在の予定です。詳細については、必ず募集要項で確認して下さい。
※入試に関する情報 <http://www.yamanashi.ac.jp/admission>

試験種別	出願期間	試験日	合格者発表
【全学部共通】 推薦入試 ※医学部医学科以外	令和元年11月1日(金)～11月8日(金)	令和元年11月16日(土)	令和元年11月25日(月)
推薦入試 ※医学部医学科	令和元年12月12日(木)～12月19日(木)	令和2年2月10日(月)	令和2年2月12日(水)
一般入試(前期日程) ※医学部医学科は実施なし	令和2年1月27日(月)～2月5日(水)	令和2年2月25日(火)	令和2年3月6日(金)
一般入試(後期日程)	令和2年1月27日(月)～2月5日(水)	令和2年3月12日(木) ※医学部看護学科以外 令和2年3月14日(土) ※医学部看護学科	令和2年3月20日(金)
【教育学部】			
試験種別	出願期間	試験日	合格者発表
3年次編入学 (生活社会教育コース)	令和元年10月23日(水)～10月29日(火)	令和元年11月15日(金)	令和元年11月21日(木)
【工学部】			
試験種別	出願期間	試験日	合格者発表
AO入試(応用化学科)	令和元年9月2日(月)～9月9日(月)	令和元年9月28日(土)	令和元年10月4日(金)

今号の表紙 昭和時代の山梨大学



表紙の写真は全て、昭和時代に山梨大学もしくはその前身の教育機関で撮影された写真です。大学祭や講義、図書館での学習の様子など、時代は違えど今と変わらない風景も多くあります。なお、本学所蔵の歴史資料の一部は甲府キャンパス内「大村智記念学術館」内の展示コーナー(写真)でご覧いただけます。

編集後記

平成の時代が終わり、新元号「令和」の時代が始まって最初の発行となる「山梨大学広報誌Vine35号」をお届けします。

今回は本学の歴史をクローズアップし、江戸時代から続くその沿革のほか、開学以降長年にわたり続けられている研究の始まりなどを紹介しました。今回紹介したのは本学の歴史のごく一部ですが、改めて過去を見据えて、成功や反省など、先人たちの積み重ねの先に今の山梨大学があるということを実感しました。

長い歴史と、発展し続けてきた研究を基盤として、次世代を担う学生が自らの将来につながる一歩を踏み出すサポートをすることが大学の使命です。

本学ではこれからも、積み上げられてきた伝統を受け継ぎながら最先端の教育・研究・医療を推進し、新しい時代を切り開く研究者や各分野のリーダーを育成するとともに、その様子をVineなどを通じて皆様にお伝えしていきます。

(広報企画室)

山梨大学広報 ヴァイン

2019
vol.35
August

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務課広報企画室

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。